

(標)

ヨウシタ, ギンバイソウ, イダヤカエテ, トチノキ, カツラ, クサアジサイ, ミズタビラ  
 コ, ミソホホズキ, タイミンガサ, イワタバコ, ツルマサキ, カナクキノキ, モミジチヤ  
 ルメルソウ, ウワミズガクラ, エンレイソウ, サワグルミ, カラスカンショウ, チヤルメ  
 ルソウ, スミレサイシン, コタニワタリ, ハンショウズル, シケチシタ, サラシナショウ  
 マ, コイケマ, オノエヤナギ, キスシ, ミツバフウロウ, クルマムクラ, オオカニコウモ  
 リ, オオヤマハコベ, ヤマズキショウマ, アマチヤズル,

(寒 蟬 義 一 部)

## 大島半島植物採集記

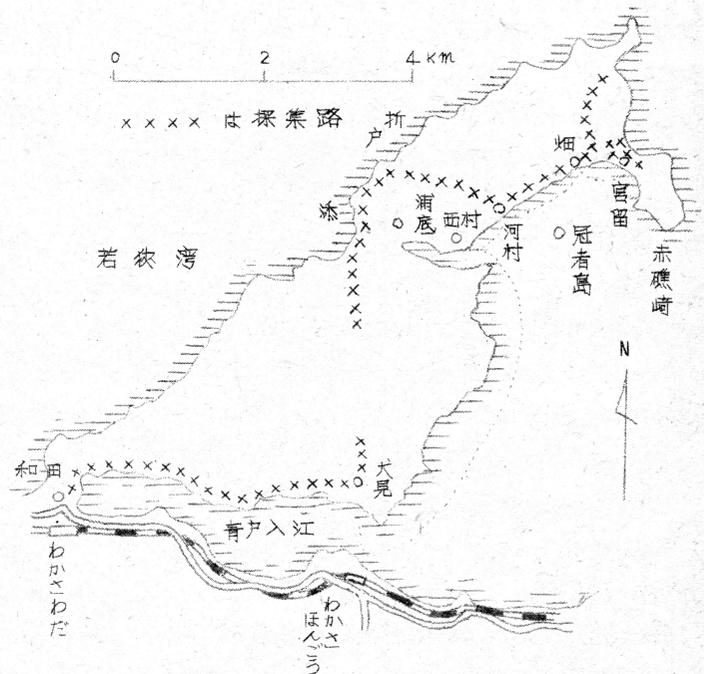
大島半島は若狭湾に突出しているいくつかの半島の一つで、植物分布上興味をもっていたが、今回8月11日から3日間堀芳孝先生と共に調査をしたのでその概要を報告する。

この半島への交通は専ら海路で、若狭本郷との間に定期便がある。半島の東岸は凹凸多く所謂沉降地形をなし、部落はこゝに点在するが、西岸は直線状で断崖が海にせまり、汀線にそつて断続した道路があるのみである。

分水嶺は西側寄で高度は100~200mであるが、通路は殆どなく、部落民が紫刈りに利用するいくつかの横断路があるに過ぎない。地質は殆ど閃緑岩乃至蛇紋岩より成り、大見付近ではその風化した土壌は肥鉄土として掘り出されている。

### 第一日

河村部落にある小学校に到着したのは正午頃なので、昼食後東岸及び半島先端部の採集を試みた。死す自然林の保存されている高山神社(河村部落)杜叢の調査をした。この杜叢はヒメユズリハ, スタジイ, モチノキ, タフノキシロタモ, トベラ, ヤブニツライ等



の常緑樹林で特にヒメユスリハ、スタジイ、モチノキ、ヤスニツケイが多く、クロガネモチ、ヤマモモ等も各ノ本かつ見られた。之等に混つて落葉樹としてはエノキが若干見られるのみである。之等の第一層の下にはアオキ、ヤタケ、ムラサキシキブ、ハリギリ、ヤマウルシ、コバノカマズミ等があり、少数のシマシマンボとサカキが見られた。下草としては日陰にオニカナワラビが最も多く、ヤブラン、ヒメカンクビソウ、ヤブコウジ、フエイチゴがあり、ヤマニガナ、ケヤスハギ、オオアレチノギク、アキノキリンソウ、コチヂミザサ等も見られた。アリドウシの見られることも珍らしく、タヌノキの樹幹にヒトツバのつくのも南國らしい。第一層の喬木にはムベ、ミツバアケビ、フエスタ、テイカカズラがまきつき、ヘクソカズラ、サルトリイバラ等の蔓草も見られた。

神社を出て畑村へ向う。路傍にはヒワヤマフツバキの栽培が行われているのも南國らしいながめである。ヒメユスリハ、トベラは相変わらず多く、下草にはハマスズ、キケマンが目立つ。帰化植物のアメリカセンダンクサ、タンドホロギク、オオアレチノギク、オオニシキソウも多い。カンバイヒルカオの一株が砂浜で見られたのは珍しい。その他このあたりで見られるものを採集頃にあつくと次の如くである。

ノソドウ、ヒヨドリジョウゴ、ヤマアイ、タテツボスミレ、アオツツラフジ、エノキ、イタビカズラ、クサ、ネムノキ、メタラ、アカメガシワ、ナワシロクサ、ヌルホ、ヤブデマリ、カマツカ、カラムシ、モミジドコロ、オニヤブツテツ、クマノミズキ、ワジュロ(裁?)ヨモギ、クサイチゴ、オニヤブマオ、キツネノマコ、イノモトソウ、タチシノス、イヌタデ、オニタビラコ、ミチヤマギ、スベリヒユ、メヒシバ、エノキ、ジュズダマ、ノキシノス、オオバノイノモトソウ、ホソバタテ(裁) ムラサキタテ(裁) タチミチヤマギ、ハマアカザ、カヤツリカサ、

畑村を過ぎたあたりのややひらけた砂浜には、

オカヒジキ、トケソバ、イヌホウズキ、オナモミ、オヒシバ、タカサフロウ、ノボロギク、ハマヒルカオ、ヒメジソ、シロザ、イヌビユ草が見られた。

やがて宮留部落に入る。この部落のタヌ林は実に美しくナツミカンの栽培されているのも珍しい。ナワシロクサやマルバクサも見られる。この部落から岬を横切つて松瀬へ向う。

このあたりには、

タイドゴメ、キケマン、キツネガヤ、カタシロクサ、クサイチゴ、ナツスタ、フエスタ、ビワ、ウバユリ、アオキ、ホウチマクソウ、シロタモ、チゴザサ、ヒエガエリ、ニガキマユミ、イホタノキ、カジケジシタ、ホラシノス、タチシノス、ベニシダ、イノホ、ミツシタ、オニヤブツテツ、トラノオシタ、イカリソウ、ハイシキミ、サイフリホク、ガマズミ、ホホノキ、ウツホカサ、ヤマウルシ、ウタイスカズラ、ヒサカキ、オケラ、ナンテンハギ、シロヤマギク、イワカサ、ダムラソウ、キンキマメサクラ、カセンソウ、ソクシンラン、クララ、レンカツツジ、カニクサ、ヤマイ、オオバキボシ、ハハネズ、ツボクサ、ネジキ、*sasa* sp., ヒメハギ、ウラジロレンカツツジ、

等が見られ、湿地には

メドハギ、ネコハギ、ノハナシヨウス、テリハノイバラ、カモノハシ、ヒメヤブラン、ヒメハギ、アリノトウグサ、イヌツケ、コオニユリ、ワレモコウ<sup>4)</sup>があつた。このワレモコウの花は見られなかつたが、かつてここを調査した今井長太郎氏によるヒナカボノシロバナワレモコウの田である。

松瀬は外洋に面する岩石の露出するあたりで、ここには

ハマゴウ、ハマボツス、スナビキソウ、ハマエノコロ、カモジタサ、テリハノイバラ、コマツナギ、ヤマモモ、トベラ、タイドゴメ、スナジノギク、カワラナシシコ、カワラマツバ、フナバラソウ、サンカクズル、マルバクミ、

等がある。

再び宮留部落に引き返し、ここから半島を横断して燈台のある鋸崎へむかう。上りは緩やかな坂道で常緑樹の間に

アカシシ、イヌシシ、ゴンズイ、カラスハシシ、ハゼ、ウリカエテ、クロモジ、コハウチワカエテ

等が混り、その下に

ヒサカキ、ホラシノス、ヤマツツジ、ツクバネウツギ、ヒメヘビイチゴ、ベニシタ、コウヤボウキ、コバノミツバツツジ、ミソハギ、ホシタ、カニクサ、イタバカスラ、タチドコロ、イカリソウ、オカタマノキ、サジカンクビソウ、オカトラノオ、ウラジロ、トウケシバ、オオイワカガミ、キツコウハクマ。

等がある。峠は標高100m程でこのあたりには

ヤマモモ、ネジキ、チゴユリ、キクバヤマボクチ、シヨウジョウバカマ、オオバノトンボソウ、シロヨメナ、ハシゴシタ、オオバギボウシ、ワカサハマギク。

等が見られた。シタ類はウラジロとホシタが圧倒的に多い。峠を越すと

ヘラシタ、ミンシタ、キスシ、クラマゴケ、フモトシタ、クマワラビ、ヤスラン、オモト、ヤマカモジタサ、ムラサキニガナ、タムラソウ、イタヤカエテ、イワカネセシマイ、キチジョウソウ、アカシヨウマ、ミヤマカタバミ、エビネ、シライトソウ、リヨウス、ゴンズイ、コナラ、アカマツ、ヤスツバキ。

等が見られ、ややひらけた所には

サンシヨウモ、イ、ハゼ、ツフスキ、ヒメシタ、ヌマトラノオ、コクサギ。

等がある。この東海岸にもヤスツバキの栽培が行われ、その下草を刈り取った姿は情緒的である。

鋸崎附近の海岸には

ハマゴウ、スナビキソウ、トケソバ、オナモミ、ハマナス、イワカサ、タイドゴメ、トベラ、マルバクミ、タフノキ、ヒメエズリハ、ハマゼリ、コオニユリ、オニヤスメツ、ハマアカサ、ヌルテ、ヤスツツケイ、タチツボスミレ、オニヤスマオ、ハマグルマ。

ハマウド、キジカクシ、ハマエンドウ、ホソバノハマアカザ、オカヒジキ、フナバラソウ、イソヤマテンツキ、アメリカセンダングサ、コマツナギ、オトコヨモギ、ミヤマアスラススキ、ツリカネニンジン、カセンソウ、

等が見られた。燈台附近の丘陵地は大部分 *sasa sp* でおおわれ、その中にヒオウギが点在していた。

## 第二日

午前中は宿舎のある河村部落の正面約 2 km に浮ぶ冠者島の調査をした。この島は枕を伏せた様な円形な島で直径約 0.5 km、周囲約 2 km の小島で、全島蛇紋岩より成る。

西岸にある僅かの砂浜に船をのり上げ、この砂浜をたいて西岸の植物を調査した。この島もヒメユズリハ、ヤブニッケイ、シロタモ、タヌノキ、スタジイ、モチノキ、ドベラ、ヤブツバキが多く、こもり繁った常緑樹林である。この外に、

オニヤスマオ、ノスドウ、エノキ、テイカカズラ、ウワミズサクラ、アオツツラフジ、ハマヒルカオ、フユスタ、ムラサキシキブ、ヤスラン、オオムラサキシキブ、オニヤスソテツ、ハマウド、マルバズミ、ヘクソカズラ、ヤマウルシ、アキノグシ、アズキナシヤマハゼ

等も見られた。

西岸の観察が終ったので、この島の祠への小道を上り、この小道のつぎる所からは島の中腹を南から東岸の方へ森を縫って行く。兩岸の常緑樹にはナツツバ、イタビカズラ、ムベ、キジョランがまきつき、その下にオニカナワラビ、アオキ、ヤタケが目立つ。その外に、イノコズチ、ハリギリ、ヒサカキ、サルトリイバラ、ベニシタ、ヒノキ、ヤスラン、ウクイスカズラ、ニガキ、ニワトコ、ビワ、コンズイ、ゴヨウアケビ

が見られた。

東岸は岩石が露出していて常緑樹が少く、ヌルネが目立ち、タキキビ、イワカサ等も多い。その外に

クヤキ、ハマハタザオ、オオアレテノギク、クサギ、ヒトツバ、ワカサハマギク、トラノオシタ、ヨモギ、タイドコメ、ヤブソテツ、イボタノキ、カラムシ、スズリ、ヒヨドリジョウゴ、フエザンシヨウ、ヤマカモジクサ、センニンソウ、

も見られた。フエザンシヨウのあることは珍しい。

ヌルネの林のつぎるあたりは崖がけわしくなるので、ここから下へ降りて、島の周囲を北岸へとまわる。この北岸も西岸や南岸と同様な常緑樹が多く、アカメガシワ、キノクニスケ、ツルタミ等も多い。その外に、

スナビキソウ、キケマン、サンカクズル、カタバミ、コバノトネリコ、フユスタ、ミズキ、エソヤマサクラ、ハマスケ、トケソバ、テリハノイバラ、ハゼノキ、クマノミズキ、ヤブコウジ、クロマツ、ツクバネウツギ、シロヨメナ、ヤマムズラ、アオキ、ウワミズサクラ、キジョラン、ヤブソテツ、イノコズチ、イワヒメワラビ、

も見られた。

以上を概観すると、この島東岸を除く大部分はヒメユズリハ、スタジイ、タフノキ、モチノキを主木とし、その外にヤスニツケイ、シロタモ、ヤスツバキ、トベラを含む常緑広葉樹にウワミスザクラ、ケヤキ、エノキ、アズキナシ、エゾヤマハクラ、ウワミスハクラ等の落葉広葉樹が僅かに混り、ミ等の樹木にムベヤキジョランがまきつき、その下にオニカナワラビ、ヤスラン、キノクニスケ、アオキ、ヤタケ等が多く、蛇紋岩の露出している東海岸はヌルホ、イワカサ、タキキビ等が岩のすき間に生えている。

午後は再び河村に引返し、半島を横断して直接日本海に面する拵戸、浜を経て、大山方面に向つた。

河村部落でニシノホンモンジスゲをかりとつて干してあるので部落民に聞いたところ、ミノにつくる由、又この部落にモウソウタケの跡が多いが、この竹材は主として漆桶のウキとして使用する由、先ずこの部落の宝楽寺に立ちよる。ここにもクロカネモチが二本と多数のアリドウシが見られた。クロカネモチは昨日の高山神社とこゝにのみしか見られなかつたが土地の人によると根は全部切りとつてしまつた由、アリドウシは山へ行けばいくらでもあるというが、之もこのニヶ所以外では発見出来なかつた。この境内ではこの外に、シラカシ、スタジイ、シキミ、コハウチワカエテ、ヤマモミチ、ウルシ、イタバカズラ、コウヤボウキ、ウバユリ、ホシタ、ミヅシタ、イワカネソウ、トラノオシタ、ベニシタ、ウラジロ、ホラシノス、クラマゴケ

等も見られた。

この境内を通るあたりから山道に入る。このあたりの景観は大体に於て昨日の所と似ており、漸次上るにしたがい普通山地の要素が多くなる。探集順にあける。

シヤカ、サンショウ、フエイチゴ、ホラシノス、クマノミズキ、ホシタ、イヌシタ、ゼンマイ、ウツギ、アキカラマツ、クサイチゴ、ミヨウカ、ミスヒキクサ、シケシタ、ヤスマオ、ウマノミツバ、クロモジ、ミスタマソウ、キンミスヒキ、ヤスタバコ、ワカサハマギク、タチシノス、アカメガシワ、アオキ、イカリソウ、ヤマカモジクサ、ニシノホンモンジスゲ、イヌツケ、ベニシタ、ヤマツツジ、タキキビ、カラムシ、ニワトコ、オオアレチノギク、イノホ、ネムノキ、イホタノキ、オカトラノオ、ミスヒキクサ、クバヤマボクチ、ミヅシタ、チホミカサ、シロヨメナ、モミジイチゴ、オトコヘシ、イタドリ、ヤマコウバシ、コウソ、オニヤソテツ、ヤマハツカ、エビネ、サジガシクビソウ、アブラギリ、アヲガシ、ヤスマラサキ、タテツボスミシ、ケジケジシタ、シシカシラ、キフシ、タイコンソウ、タラノキ、フモトシタ、ジユウモンジシタ、クマワラビリヨウメンシタ、イタチシタ、イヌガヤ、ヤクシソウ、

やがて標高120~130mの峠を越え急な坂を下る。この日本海側では、

ツクバネウツギ、ヤマアイ、ヤマイトチシタ、オオカマツカ、コマユミ、ナツスタ、ハシカクサ、アオヤギソウ、カラスカンショウ、ヒメワラビ、ヤマイヌワラビ、アヲネ、

ワラビ、ホタンズル、シロタモ、オニグルミ、ツルウメモドキ、ヤスツバキ、  
等が得られた。ヤスツバキは東岸よりもこの西岸の方が多きようである。

この山道を下りた辺を折戸といい、ここから岩礁或は僅かにある砂浜添いに浜までの海岸を抜く。途中でさるまたし外し深にリツクを背負い腰まで水につかって寝るという珍景もあつた。約3 km の路程であるが、砂浜が少いことと外洋の波に洗われるため殆ど海岸植物らしいものはなく、又樹相は相変らずの常緑樹林で植物相の変化はあまり見られなかつた。ここで採集したものは次の如くである。

イワガサ、アカメカシワ、オニヤブマオ、ハマウド、イノコズチ、トケソバ、ハマヒルガオ、トベラ、カワラナテシコ、ヨモギ、スナビキソウ、ヌルテ、カラスサンショウ、オニヤブマオ、オオバオウセイ、エビスル、ハマスゲ、ハマホックス、センニンソウ、イソヤマテンツキ、タヌノキ、ツルナ、キジカクシ、ホソバハマアカサ、クロマツ、クルマバサクロソウ、オウバギボウシ、ハマエンドウ。

浜から再び山道に入り大山の方へ向う。僅か300 m 程の高さであるが今回の採集行では最も高い所であるので、植物相の変化を特に注意した。タヌ、ヤスニツケイ、シロタモ、スズジイ等は100 m 位まで、ヤマモモ、ヒメユズリハは200 m 以上まで分布している。しかしエ等の常緑樹は上るにしたがつて数も少く姿も小さくなる。之に反してマルバマンサク、リョウブ、キンキマメサクラ、ソヨゴ等が次第に目立つてくる。尚この辺一帯にヒユウガミスキが多い。その他の採集品は採集順に次の如くである。

キジムシロ、ゴアナカサ、カタシロカサ、キクバドコロ、イワガサ、アセビ、キキョウ、ホホノキ、ナガバノコウヤボウキ、センズリ、サイコクミツバツツジ、カキラン、カヤレンゴツツジ、ウリカエテ、ヤスコウジ、ウタイスカクラ、アキカラマツ、アカシテ、タムラソウ、ハリイ、ヒネリコ、フタバムクラ、コナギ、イモノキ、ヤマボウシ、ウラジロノキ、ノササゲ、ヒメテンツキ、トケシバ、シテザクラ、ソヨゴ、キハギ、サイコクミツバツツジ、ハイネズ、コバノミツバツツジ、ソクシンラン、ワカサハマギク、シライトソウ、コバノカマズミ、コゴメウツギ、クロモジ、サンショウ、タンコウバイ、クマヤナギ、イモノキ、メギ、ウラジロ、ヤマウルシ、コナラ、ナツハゼ、ネズミサシ、タムシバ、アカマツ、サルトリイバラ、ヒサカキ、アクシバ、ヤマボウシ。

### 薬 三 日

早期に宿舎を引き上げ、渡航船で若狭本郷へ、更にここから対岸の犬見へ行く。先ず犬見附近の山地を抜く。ここは昨日の大山の頂度反対側であるが、例の常緑樹は少く、ヒユウガミスキ、アセビ等が多い。採集品は次の如くである。

フシタロ、チカマ、アゼカヤツリ、トケシバ、メドハキ、イノモトソウ、ホラシノス、タチシノス、ヤマイ、ヤクシソウ、ヒロハイノモトソウ、アイバソウ、ヤマガモシクサ、シラヤマギク、キンキマメサクラ、ヤマナラシ、ヌルテ、アカメカシワ、コナラ、エソヤマサクラ、ヒユウガミスキ、ヒメユズリハ、マルバマンサク、クロモジ、オオバノト

ンホソウ、ミツバアケビ、カンピ、キキョウ、ウクイスカケラ、ヤマウルシ、ソヨゴ、  
 タンゴウバイ、ネジキ、キハギ、アセビ、コバノトネリコ、ユバノカマズミ、コウヤボ  
 ウキ、クロモジ、ハイシキミ、リョウブ、ヒメハギ、イヌツゲ、スタジイ、ネズミサシ  
 イソノキ、イカリソウ、ヤマツツジ、リンドウ、ツリガネニンジン、ウツボクサ、ゼン  
 マイ、オカトラノオ、ノアザミ、イモノキ、ナツハゼ、ヤマモモ、シラヤマギク、ヒサ  
 カキ、センスリ、チゴユリ、ミヤマカマズミ、コアジサイ、タチドコロ、キジムシロ、  
 カリヤス、スノキ、タンゴウバイ、オケラ、イワカサ、アキカラマツ、ミツバツチクリ、  
 イヌザンショウ、センボンヤリ、テリハノイバラ、ハギ、ワカサハマギク。

再び犬見部落にもどり、ここから青戸入江さいに和田迄約5kmの道を歩く。ここは極  
 めて平凡な道であつたが、オオニシキソウの得られたこと、ヒトモトススキが生えていた  
 こと、アカサの2種(種名不詳)が得られた事等の収穫があつた。採集品は次の如くであ  
 る。

ヤマモモ、オオマツヨイタサ、メドハギ、イタドリ、ホソバノハマアカサ、ホウキギク、  
 ハマゼリ、ナワシロイチゴ、ヨウシュヤマゴボウ、アキカミ、マクシソウ、メドハギ、  
 ヤマウルシ、ヌルテ、ウラジロ、マルバマンサク、カワラヨモギ、ハゼノキ、オオニシ  
 キソウ、タケニタサ、ハンノキ、ハネミイヌエンジユ、カモノハシ、ヒトモトススキ、  
 チゴササ、カワラスカナ、ヨシ、ギョウギシバ、カゼクサ、テカラシバ、マメクンバイ  
 ナズナ、シロバナサクラタテ、アオビユ、オカヒジキ、ホタルイ、タチミチマナギ、ス  
 タクサ、アカサ 4p.

(寒 燧 義 一 記)

## 国見岳植物採集記

昭和30年9月11日日本会の植物採集会を福井市国見岳で行つたのでその概況を報告す  
 る。

国見岳は町村合併の結果その山頂まで福井市に編入されたが、標高656mの山で、兼  
 崎行バスの沿線更毛から約10kmの路を上一光を經て登らなければならぬ。しかし山  
 は比較的低いからか、しかも文化が多いので、採集には理想的である。

この方面の山は伐採された二次林で植物相は若く、又特に珍しいものも得られなかつ  
 たが、次の点は注意すべきことではなからうか。

1. ミズナラは400m、スナは500mあたりから出現する。
2. ヒメムカシヨモギは見られるが、オウアレチノギクはまだ侵入していない。
3. イヌショウマが多い。